

2013 年度「会計情報論」講義（石川）の論点整理のために

毎回の講義での重要な点などを、設問のかたちで示しておきます。講義の論点整理および小テスト・本テスト対策に役立ててください。

なお、小テスト・本テストはこのQのなかから選んで出題する予定です。答えはすべてテキストのなかにあります。

※講義の理解のために3つの役立ち→①テキストの復習、②講義のカラースライド、③放送大学「社会のなかの会計」（テレビBS放送）の第6回～第12回。

※テキスト：石川純治『変貌する現代会計』（日本評論社、2008年、2013年Web版）

※難易度：A＝上級、B＝中級、C＝初級

● 4／26の講義：第1章「企業会計原則」と今日（スライド1～5）

Q1（議論の出発点とその重要性）：そのときの議論とは、そもそも何ですか（C）。出発点を定めることがなぜ重要なのですか（A）。そして、その出発点として具体的に何をもってきたか（C）。さらに、それをもってくることに異論はなさそうですが、その理由はなんですか（B）。

Q2（知識の学習と理解の学習）：学習のレベルを知っておくことの大切さはどこにありますか（B）。

Q3（動態論の基本に関して1）：静態論と比較する理由はどこにありますか（B）。

Q4（動態論の基本に関して2）：費用と資産の関係はどうなっていますか（B）。さらに損益計算P/Lと貸借対照表B/Sとの関係は理解できましたか（A）。

● 5／10の講義：第1章のつづき（スライド6～8）

Q5（動態論の基本に関して3）：スライド6の図の6千万からの太字矢印は何を表していますか（B）。

Q6（動態論の基本に関して4）：費用の「かたまり」とはどういうことを言っていますか（B）。ヒント：フローとストックの後先。

Q7（動態論の基本に関して5）：動態論の思考が「天動説」から「地動説」に匹敵するコペルニクス的転回であることの意味を述べなさい（B）。

Q8（損益計算書原則1Aについて1）：2つの異なるフローが示されているが、それは何か（B、カラーでの色分けがヒント）。その2つの関係はどうなっているか（A）。さらに、ストック（資産・負債）は表立ってでていないが、暗黙に示唆されている。それはどういうことか（A+）。

Q 9※ (損益計算書原則 1 Aについて 2) : Q 8 を具体的に減価償却で説明せよ (A)。

● 5 / 24 の講義 : 第 1 章のつづき (スライド 9 ~ 10)

Q 10 (繰延資産について) : 先の有形固定資産と繰延資産の異同について述べよ。特に資産としての本質が同じとはどういうことですか。(B)

Q 11 (常識と理論) 理論の意義について簡単に述べなさい。動態論の思考がコペルニクス的転回といわれる理由を述べなさい。(C)

● 5 / 31 の講義 : 第 1 章のつづき (スライド 11 ~ 18)

Q 12 : 「会計は商業の子」とはどういうことを言っていますか。また、その意味の重要性はどこにありますか。(C、B)

Q 13 : 歴史的に俯瞰することはなぜ重要ですか。(B)

Q 14 : 静態論から動態論への変容のモーメントは何ですか。(C)

Q 15 : 動態論思考から今日、別の思考が出てきていますが、その基礎にどのような経済の変化がありますか。(B)

● 6 / 7 の講義 : 第 2 章 (スライド 1 ~ 5)

Q 16 (良質の不安) : 「良質の不安」とはどういう不安ですか? 関連して、第 1 章と第 2, 3 章とのつながり、講義のながれ、について述べなさい。(B)

Q 17 (不変の構造) : なぜ「不変の構造」と言えるのですか。(B)

Q 18 (将来の収入・支出と当期の収益・費用) : 「実現」の内容の拡大、「発生」の内容の拡大について、それぞれ将来収入、将来支出と当期の収益・費用の関係について述べなさい。(A)

Q 19 (変容の大きさの判断基準) : 金融商品会計 (第 2 章) が、もし「実現」の内容の拡大の延長上にあるとすれば、どういうことが言えますか。

同じく、退職給付会計 (第 3 章) が、もし「発生」の内容の拡大の延長上にあるとすれば、どういうことが言えますか。(B)

● 6 / 14 の講義 : 第 2 章 (スライド 6 ~ 12)

Q 20 (企業会計原則の取り扱い、スライド 6) : なぜ同格性の根拠を見ようとするのですか。(B)

Q 21 (変容のモーメントから会計ルールへの規定関係、スライド 8) : 会計ルールのなかだけの議論の限界はどういうところにあると考えますか。(B)

Q 2 2 (未実現収益の計上禁止、スライド9) : P/LとB/Sの関係を述べなさい。(B)
今日の時価会計ではその関係はどうなっていると考えますか。(B)

Q 2 3 (実現可能基準) : この考え方について、先のP/LとB/Sの関係を述べなさい。
(A)

Q 2 4 (実物と金融の区別、スライド10) : この区別の観点から、実現可能基準の考え方について述べなさい。(A)

Q 2 5 (有価証券=貨幣性資産、スライド12) : 企業の営業循環過程 (投下資金の回収余剰計算) からみれば、費用性資産は資本 (資金) の投下形態にあるもの、貨幣性資産は資金の回収ないし再投資待機にあるもの、となります。

この観点からスライド12への批判的見解を述べなさい。(A+、チャレンジ問題)。

● 6/21の講義 : 第2章 (スライド13~16)

Q 2 6 (情報開示と利益計算、スライド13) 経済的実態や財務リスクの適正開示が利益計算と直接的、本来的に結びつくものでない理由を述べなさい。(B)

Q 2 7 (理論の場、スライド14) 理論の場ということを議論するのはなぜですか。その理由を述べなさい。(B)

Q 2 8 (動態論の貸借対照表の見方と今日的要請、スライド15) 動態論の貸借対照表の見方が今日的な要請に不適合性であることの理由を述べなさい。(B)

Q 2 9 (LIFOとFIFO、スライド16) 後入れ先出し法 (LIFO) が廃止になった理由をストック重視の観点から述べなさい。(A)

● 6/28の講義 : 第3章 (スライド1~5)

Q 3 0 (引当金の基本的な考え方、スライド3, 5) : 注解18の前段と後段の関係、すなわち費用計上 (フロー) と負債計上 (ストック) の関係を説明しなさい。(B)

Q 3 1 (同一のロジックその1、スライド4) : 2つの配分方法の同一のロジックとはどういうことですか。(B+)

Q 3 2 (同一のロジックその2、スライド4) : 2つの配分方法の相違を、過去・現在・将来の観点から説明しなさい。(B+)

Q 3 3 (費用と負債の捉え方、スライド5) : 2つの式で示される費用と負債の捉え方の相違はどういうところにありますか。(B)

● 7/5の講義 : 第3章 (スライド6~14)

Q 3 4 (財務の透明性、スライド7) : 「財務の透明性」とはどういうことを言っているのですか。そのことと時価開示について述べなさい。(B)

Q 3 5 (時価会計の図式、スライド 8) : この図式の矢印で示される一連の関係を説明しなさい。(B+)

Q 3 6 (減損会計の2つの見方、スライド 9) : 2つの見方の基本的相違について説明しなさい。(A)

Q 3 7 (共通の基本論点、スライド 10) : 前回と今回の共通の基本論点について述べなさい。(B)

Q 3 8 (「企業会計原則」との整合性、スライド 11) : その図は何を説明しようとしていますか。(B)

Q 3 9 (問いの形、スライド 13) : この図のポイントはどこにありますか、説明しなさい。(B+)

Q 4 0 (構造的な変容問題、スライド 14) : 「構造的な変容」とはどのようなことですか。先のスライド 13と関連させて述べなさい。(B+)

● 7 / 12 の講義 : 第 3 章 (スライド 15 ~ 21)

Q 4 1 (PVの計算、スライド 15, 16) : 複利計算とPV計算の関係はどうなっていますか、説明しなさい。また、割引率の大小とPVの大小について述べなさい。(B)

Q 4 2 (リセット会計、スライド 17) : 時価会計が「リセット会計」と言われる理由を述べなさい。(B+)

Q 4 3 (ノン・リセット会計、スライド 17) : 原価主義会計が「ノン・リセット会計」と言われる理由を述べなさい。(B+)

Q 4 4 (負債の時価会計、スライド 17) : 退職給付会計が負債の時価会計と言われる理由を述べなさい。(B+)

Q 4 5 (4つの時価会計、スライド 20, 21) : 会計と経済の関係を4つの時価会計のなかで説明しなさい。(B+)

※ 7 / 19 の上期最終回での小テストでは、Q 1 ~ Q 4 5 のなかから 3 問選んで出題します。

● 後期9/27の講義：第4章（第9回スライド1～14）

※テストなどで高い評価を受ける答案の書き方

→自分で咀嚼して、自分の言葉で書く（表現する）。テキストからそのままもってくるのはよくない。

Q1（前期講義とのつながり、スライド1）：前期講義（第1章～第3章）と今回（第4章）とのつながり（講義全体のながれ）をつかむことが重要ですが、そのつながりを説明しなさい。新旧とは何ですか、たとえば答えなさい。

Q2（「拡張の論理」、スライド3）：ここでの全体＝「基本」＋「拡張」の全体と基本とは何ですか、説明しなさい。

Q3（「補完の論理」、スライド4）：①先の「拡張」とここでの「補完」とはどう違いますか。②従来の実現利益の計算とは、どのような計算ですか。

Q4（「区別の論理」、スライド6）：いずれが「基本」という関係にはない、とはどういう関係ですか。

Q5（3つの見方の比較、スライド9）：原点とは何ですか。「区別」の見方が楕円形で示されていることの意味はなんですか。

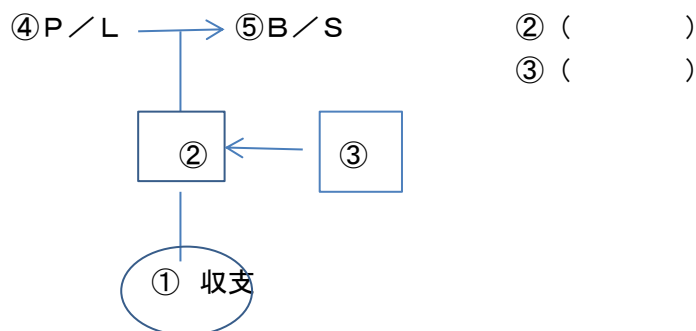
Q6（CAAモデル、スライド11）：キャッシュフローが別のカラーで示されていることの意味は何ですか。

Q7（「支出」の配分、スライド13）：イとロを過去・現在・将来の時間軸で説明しなさい。

Q8（収支・収益費用・資産負債、スライド14）：支出に関して、イの長方形（費用＋資産）、ロの長方形（費用＋負債）は、それぞれ何を表しているか、説明しなさい。

● 後期10/4の講義：前回の復習

先にQ6の復習から：②と③に適切な用語を入れなさい



● 後期10／11の講義：第6、7章（第10回スライド1～6）

Q9（変容の形と方向、スライド1）：全体の議論のながれを説明しなさい。

Q10（2つの特徴比較、スライド3）：系I（“水の会計”）の②の当初認識時の維持継続と③の配分とはどうかかりますか（A）。

Q11（2つの特徴比較、スライド3）：系II（“油の会計”）の②の再測定は平たく言えば、別の言葉でどう表現できますか。2つあげてみなさい。Q10の配分が“油の会計”では不可能である理由を述べよ（B+）。

Q12（ハイブリッド構造の概念図、スライド4）：タテとヨコの矢印を、それぞれ説明しなさい。

Q13（会計思考のハイブリッド、スライド5）：何と何がハイブリッドですか（C）。思考のハイブリッドとスライド3の枠組みのハイブリッドとはどう関係しますか（A）。

Q14（変容の構図、スライド6）：形と方向とはどういうことですか。テキストの減価償却費が“最後の砦”とは、どういう意味ですか。その砦が消滅するとどうなりますか、スライド4で説明しなさい。

● 後期10／11の講義：第7章（第10回スライド7～9）

Q15（利益計算か実態開示か、スライド7）：⊕と⊖がなければ、どういう議論になりますか。そして、それがなぜ議論がしやすいですか。

Q16（B/SとP/Lの位置関係、スライド8）：なぜB/SがP/Lよりも先行するのですか。そして“水の会計”での両者の関係と比較して、“油の会計”の特徴を述べなさい。

Q17（情報開示が利益を生むか、スライド8）：この問いは、どういうことを言いたいのですか、“油の会計”の特徴をふまえて説明しなさい。

Q18（変容の基礎・構造・形態、スライド9）：この3つの関係と①から⑤の順序を述べなさい（B+）。また、①は第1章では、どのように説明していましたか。そこでのターム（用語）で答えなさい（C）。

● 後期10／18の講義：第7章（第10回スライド10～14）

Q19（補論：会計認識の今日的あり方、スライド13）：開示>計算とは、どういうことをあらわしていますか、現代会計の特徴として説明しなさい。

Q20（認識拡大の起点、スライド14）：伝統型（水の会計）と現代型（油の会計）との起点の相違について述べなさい。（A）

● 後期10／25の講義：第8・9章（第11回スライド1～5）

Q21（「企業会計原則」と「概念フレームワーク」、スライド3）：伝統型（水の会計）と現代型（油の会計）の立脚点という観点から、新たな「概念フレームワーク」の登場について述べなさい。

Q22（苦心の計算構造、スライド4）：何が「苦心」ですか、Q21と同じく、伝統型（水の会計）と現代型（油の会計）の観点から述べなさい。（B）

Q23（新たな「実現」概念＝リスクからの解放、スライド5）：「企業会計原則」ではリスクという用語（ターム）はまったく出てきません。このことをふまえて、あらたな「実現」の定義について、これもまた「水の会計」と「油の会計」の観点から、述べなさい。（B）

● 後期11／15の講義：第8・9章（第11回スライド6～9）

Q24（2つの整合性問題、スライド6）：2つの破線矢印①、②と2つの整合性問題について述べなさい。

Q25（全体図、スライド7）：全体図のキーワードを3つあげ、財務報告（現代の企業会計）の目的を述べなさい。

Q26（投資→拘束→解放、スライド8）：Q25のキーワードをふまえて、この図でのB/SとP/Lの位置を説明しなさい。（A）

Q27（概念フレームワークの立脚点、スライド9）：企業会計の規範としての「有用性」と「真実性」を対比させる意味合いを述べなさい。

Q28（歴史の文脈で、スライド10）：史的相対化の視点がなぜ必要ですか、述べなさい。また、相対化には2つあるが、もう1つの相対化はどのような相対化ですか。

● 後期11／22の講義：第10章（第12回スライド1～5）

Q29（規範と現実、スライド3）：規範と現実の今日的関係は、一般的傾向としてどうなっていますか。そして、特に憲法と会社法について、述べなさい。

Q30（有限責任制の対価、スライド4）：有限責任制について説明しなさい。そしてその「対価」とはどういうことか、述べなさい。

Q31（省令委任、スライド5）：①まず省令委任とはどういうことか、②それが必要に

なってきた背景は何か、③その問題点はどのような点にあるか、述べなさい。(A)

● 後期11/29の講義：第10章（第12回スライド6～8）

Q32（情報開示会計の優位性、スライド6）：企業会計の2つの役割を説明し、今日の会計の特徴を述べなさい。

Q33（二重構造と3つのステージ、スライド7）：二重構造という点にふれて、さらに3つのステージを説明しなさい。

Q34（企業会計と会社法の変容、スライド8）：「企業会計原則」と概念フレームワークの位置を説明しなさい。

● 後期12/6の講義：第10章（第12回スライド9～14）

Q35（簿記会計の原点、スライド9）：簿記会計の原点からみて、現代の会計（油の会計）の特徴を述べなさい。

Q36（資本と利益の区別、スライド10）：資本と利益はなぜ厳格に区別される必要がありますか。現代の会計の変容を、その観点から述べなさい。

Q37（企業会計と会社法の変容の全体図、スライド12）：概念フレームワークが表、「企業会計原則」が裏、としている意味を述べなさい。

Q38（「資本・利益区別の原則」と現代会計の特徴、スライド14）：現代の会計の変容が、「資本・利益区別の原則」の変容として集約されるのはなぜですか。

● 後期12/13の講義：第11章（第12回スライド15～24）

Q39（確定決算主義はどうか、スライド15）：会計のグローバル化と確定決算主義について述べなさい。

Q40（「金融・開示・取引法」優位の現代会計、スライド20～24）：①金融>実物、②開示>計算、③取引法>組織法の3つの視点から、現代の会計の変容と特徴を述べなさい。